

同志社大学

2013年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2014年 3月 20日提出

所属	職名	氏名
グローバル・コミュニケーション学部	教授	南井正廣
研究題目	18世紀イギリス文学・文化の研究	
研究成果の概要	<p>本年度の研究は、5月25日に東北大学で開催された日本英文学会第85回大会シンポジウム第3部門「Possess or Possessed? 近現代小説に見る所有」でのパネラーとしての発表が中心であった。同発表では、Henry Fieldingの代表作 <i>Tom Jones</i> や最終作 <i>Amelia</i> と所有の関係を概観し、Fieldingが治安判事の経験に基づいてまとめた論文 <i>An Enquiry into the Causes of Late Increase of Robbers</i> で示されている知見との比較を試みた。シンポジウムの際に、各パネラーの個別の発表が長くなり過ぎ、事前に準備したパネラー間の討議がほとんど実現しなかったため、「近現代小説と所有」というテーマの意義をさらによく理解してもらうために、出版を計画し、パネラー間で話し合い、英宝社と交渉した結果、英宝社ブックレットとして出版することが決定した。2月末を締切としたので、Fieldingの全小説を読み直し、5月の発表時の原稿に、初期の小説に関する研究成果も付加することができた。また、同ブックレットの最終章には「シュンボシオン」と名付けた架空の対談を設け、「小説と所有」というテーマに沿って、各パネラーの知見や研究成果を述べ合うような仕掛けになっている。英宝社ブックレットは2014年5月か6月頃に上梓される予定である。</p> <p>なお、共同執筆者は、山本史郎氏（東京大学）、三宅敦子氏（西南学院大学）、高桑晴子氏（専修大学）である。</p>	